

Ⅱ 事例研究

1 地域のネットワークでつくる活動事例

大人も子どもも楽しむ“やばっこ”活動 ～大人と子どもの居場所づくり～

矢場川公民館だより（足利市矢場川地区広報紙）の公募により集まった20歳代から70歳代の多彩な顔ぶれで、小学校周辺の地域（矢場川公民館・やばっこ広場等）をフィールドに、伝統行事や自然をテーマにした遊びを盛り込んだ活動を展開



関わっている人<幼児、小学生、青年、成人>

☆活動名 一人ひとりからつなぐ 地域活動からまちづくりへ

【活動の趣旨】 合言葉は“子どもと遊べる大人のナット（納豆・ネットよりねばっこい）ワークづくり”。スタッフ自身が心から楽しみ、子どもたちとのふれあいやつながりを大切にした活動を展開している。
バウムクーヘンづくり

【共催、連携】 矢場川地区公民館・育成会・PTA等

【対象・人数】 やばっこスタッフ・・・20歳代から70歳代の「やりたい思い」を持った大人
やばっこ活動・・・矢場川地区の子ども50人 他地域からの参加もできる

【始めるきっかけ】 今の時代、女性は元気がいい。趣味や社会的活動等により人生を謳歌している人が少なくない。一方で男性は、人付き合いも仕事をとおしてという場合が多く、地域のつながりは少ないのが現状。“やばっこ”活動はこうした男性たちの交流できる場づくりが出发点だ。「地域に子どもたちの居場所をつくろう」という発想を基にしたお楽しみ活動が、結果的に「大人の居場所」になったというのが本当のところだろうか。

【広報のしかた】 矢場川公民館だより（矢場川地区広報紙）の全戸配布と矢場川小学校児童への配布。

【主な活動内容】 ☆「矢場川ウオーク」

河川敷を歩くことで川を見直し、地域や身近な環境への思いを育てる。

☆「十日夜(とおかんや)のわら鉄砲」

五穀豊穡を祝った行事を40年ぶりに復活。五穀豊穡の意味を考え、紙芝居・途絶えた遊びや行事等を利用して十三夜・十五夜との関連も伝えていく。

☆「竹取物語」

地元の竹林で筍掘りや竹を切り出し、竹細工で自分がつくった器や飯ごうを利用して筍ご飯をつくって食べる。また、竹の利用価値等も学ぶ。

活動の特徴

-
- ①多彩な顔ぶれ、みんなでわいわい あるのは本当に楽しみたいという思い
 - ②伝えたい、残したい 大切にしたい直接体験
 - ③つながりたい、つなげたい 大人と子どもの居場所づくり
-

【成果と課題】

“やばっこ”は自分の意思で主体的に関わってきたメンバーの集まりで、子どもたちや自分たちが楽しいと思うことしかしない。年間をとおしてやらなければならない行事を組むことは極力避け、いつもその時「やってみたい！」と思うことを煮詰めて次の行事を決めていく。「ああしよう、こうしよう」と会議での意見も活発で、様々なアイデアを出し合いながら楽しんでいる。拘束のない自由な遊びの場でこそ、のびのびと力が発揮されるもの。奉仕や義務ではなく、本当の意味のボランティア（自由意思）精神が生きている。

日常的に子どもや地域の人との関わりを持ち、イベント的なものに頼らないというのが課題である。

☆これから始める人へのメッセージ

一人ひとりの自由意思を大切にして、名前を呼び合えるような取組に！

やばっこスタッフ

代表者 新島 和雄

所在地 〒326-0835

足利市里矢場町 1643-1 足利市矢場川公民館内

電話/FAX 0284-71-2444/0284-73-4287

E-mail ybgw-k@city.ashikaga.tochigi.jp

